

成果指標について

柱 1 心をつなぐ地域づくり

◆ 指標と推移

指標名	令和元年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
隣近所に困ったときに相談し助け合える人がいる割合	41.0%	34.7%	60.0%

- ・第 4 次計画では「隣近所に困ったときに相談し助け合える人がいる割合」を成果指標とし、令和 8 年度に 60%となることを目標に掲げた。
(目標値は、「隣近所との理想のつきあい方」を尋ねたアンケート結果から設定。)
- 令和 7 年度の実績値は 34.7%にとどまり、計画策定時(令和元年度・41.0%)から低下した。

◆ 分析・評価

- ・近所づきあいがいい理由:「忙しく付き合う時間がない(36.9%)」「生活時間が異なり接する機会がない(32.4%)」「どんな人が知らない(28.5%)」「近所以外に相談・助け合える人がいる(25.3%)」。
- ・ライフスタイルの多様化による出会いの機会減少と近所以外のつながりを重視する価値観の変容が背景。
- ・どのようなときに助け合える人がいればよかったについては、「災害や犯罪被害にあったとき(33.9%)」の割合が最も高い。

◆ 4 次計画での進捗(公助項目の A/B 評価)

年度	A 評価	B 評価	評価なし
R4	17	4	
R5	19	1	1
R6	20	1	

→ おおむね A 評価。ただし住民ニーズ・改善点を踏まえ、今後も事業の質向上・充実の継続が必要。

◆ 目標未達の要因

- ・SNS 等の普及で相談相手を近所以外に求める傾向。
- ・防犯意識の高まりによる心理的距離の拡大。

◆ 5 次の成果指標(指標の見直し)

指標名	実績値	目標値
日頃から世間話ができる以上の関係性の人が隣近所にいる市民の割合	54.6% (令和 7 年度)	71.0% (令和 14 年度)

緊急時・災害時の助け合いには日頃の世間話程度の関係が不可欠。

指標を「世間話ができる以上の関係性の人がいる割合」に再設定。

柱 2 楽しく暮らせる地域づくり

◆ 指標と推移

指標名	令和元年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
ボランティアや市民活動に現在参加している市民の割合	8.5%	5.9%	40.0%

- ・第4次計画では「ボランティアや市民活動に現在参加している市民の割合」を成果指標とし、令和8年度に40%となることを目標に掲げた。
(目標値は、「ボランティアや市民活動にどの程度関心があるか」を尋ねたアンケート結果から設定)
令和7年度の実績値は5.9%にとどまり、計画策定時(令和元年度・8.5%)から低下した。

◆ 分析・評価

- ・参加したことがない主な理由:「時間が足りない・忙しい(54.1%)」「健康に自信がない・高齢(22.3%)」「活動に興味がない(20.9%)」「団体情報が得られない(17.6%)」
- ・目標値の参考とした指標も、今回のアンケート調査では大幅に減少しており、市民のボランティアや市民活動への関心が低いことが伺える。しかし、ボランティアや市民活動は、誰もが社会と繋がり活躍できる環境をつくり、地域力を高めるための重要な役割を担っており、引き続き取り組む必要がある。
- ・時間的な制約や身体的な制約がある場合でも参加できるようなボランティアや市民活動が開発できれば、新たな担い手の確保につながる可能性がある。

◆ 4次計画での進捗

年度	A 評価	B 評価
R4	15	2
R5	17	—
R6	17	—

→ おおむね A 評価。ただし住民ニーズ・改善点を踏まえ、今後も事業の質向上・充実の継続が必要。

◆ 目標未達の要因

- ・「時間が足りない・忙しい」が半数以上で、生活にゆとりのない人が多い。

◆ 5次の成果指標(目標値の見直し)

指標名	実績値	目標値
ボランティアや市民活動に現在参加している市民の割合	5.9% (令和7年度)	30.0% (令和14年度)

参加機会を増やす事業中心の柱のため、指標「参加している割合」は妥当と判断し据置。

目標値は令和7年度のアンケート結果(26.2%)を踏まえ30%に見直す。

柱 3 安心して暮らせる地域づくり

◆ 指標と推移

指標名	令和元年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
地域での支えあいや助け合いに関心を持っている市民の割合	45.1%	33.5%	80.0%

・第4次計画では「地域での支えあいや助け合いに関心を持っている市民の割合」を成果指標とし、令和8年度に80%となることを目標に掲げた。

(目標値は、「地域での助け合い活動が必要だと思うか」を尋ねたアンケート結果から設定)

令和7年度の実績値は33.5%にとどまり、計画策定時(令和元年度・45.1%)から低下した。

◆ 分析・評価

- ・地域での助け合い活動が必要な理由:「災害などいざというとき(59.5%)」「お互い様(55.5%)」「地域の一員として必要(31.9%)」。
- ・目標値の参考とした指標である「身近な地域での助け合い活動が必要だと思う」市民は70.60%と依然として多い。
- ・ライフスタイルの変化や価値観の多様化によって、自らが地域の支えあいや助け合いに関心を持たなくなっているが、必要性については市民も感じており、関心の低下と必要性の認識は必ずしも一致していない。

◆ 4次計画での進捗

年度	A 評価	B 評価	評価なし
R4	35	3	1
R5	39	—	
R6	38	1	

→ おおむね A 評価。ただし住民ニーズ・改善点を踏まえ、今後も事業の質向上・充実の継続が必要。

◆ 目標未達の要因

関心がない理由は調査になく明確でないが、地域での助け合い活動が必要ではない主な理由(「家族・親族で対応できる」「他人に干渉されたくない」「行政・民間サービスで対応可能」)に近いと推測。

◆ 5次の成果指標(指標の見直し)

指標名	実績値	目標値
地域の中で安心して生活できている市民の割合	79.6% (令和7年度)	100.0% (令和14年度)

柱名「安心して暮らせる地域づくり」に即し、指標を「支え合いや助け合いへの関心」ではなく「地域の中で安心して生活できている市民の割合」に変更(実績79.6%)。目標は100%を目指す。